



# 青き楓

島高だより  
令和2年5月号  
(通巻第170号)  
長崎県立島原高等学校  
編集：研修広報部

校長室から

## その日は必ず来る

校長 渡邊 孝経

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4月22日から5月10日まで休校にし、その後、分散登校を行っていたが、5月25日に通常通りの教育活動が再開できた。久しぶりにみんなが揃い、やっと島原高校になったと、一安心した。

まずは、健康・安全・安心な学校生活のために、これまで通り、手洗い・咳エチケット等に心掛けてもらいたい。

次に、学習については、心配しなくてよい。本校の伝統に裏付けられた進路指導を信じよと言いたい。休校中、自学自習をしっかりしてきたと思う。「目標を定める」「計画を立てる」ことの大切さに気づく、いい機会になったのではないだろうか。「こうなるとは思わなかった」予想もできないことが起こる。だから「今」を精一杯頑張ることの大切さを学んだ。こういう困難でも、大きく学ぶことができることが、若い君たちの特権だろう。

部活動については、春の選抜大会、高校総体、九州大会、インターハイと、これらを目指し、小学校の時から頑張り続け、高校で活動を終える者もいるだろう。それなのに各種大会の中止が相次いだ。「本当に言葉がない」「君たちにかける言葉が見つからない」この「切なさ」が私自身の今の気持ちである。多くの者が人目をはばからず涙を流し、立ち上がれないほど落胆している。これまで目にしたことのない君たちの様子に、本当に心が痛む。野球部や文化部も同じだろう。

ただ、私自身の経験から、強く言いたい。「君たちは何も悪くない」「その競技も悪くない。だから投げ出さないでくれ」と。大きな落胆は、本気で向き合った者にしか味わえない。今はつらいだろうが、何にも代え難い経験であったとわかる日が必ず来る。今、大人たちは、どうにかしたいと高校総体の代替を真剣に考えている。その時は、精一杯力を出し切って、次のステージを夢見よう。

最後に、キングコング（漫才）西野亮廣さんが、近畿大学卒業式の講演会で話された絵本「チックタック約束の時計台」の話をしたい。

時計には、長針と短針がある。長針と短針は、必ず一時間に一度重なり、長針が短針を追い抜く。しかし、11時台だけは重なることがない。最後に重なるのは12時ちょうど。その時に大きな鐘がなる。人生には、必ず11時台がある。12時の鐘が鳴る前は、報われないことがある。つまり、大きな喜びや成功の前には、報われないことが必ずある。しかし、それを我慢していれば、必ず大きな喜びや成功がある。12時は必ずやってくる。そのことを信じて、一日一日、その時、その瞬間を精一杯頑張れ。

特に、部活動をしていた3年生は悲しいだろう。しかし、繰り返し言いたい。「11時台のあとには、必ず12時がくる。そして、鐘がなる」



## 第1学年より

第1学年主任 植松 耕平

75回生が入学して約2カ月が経ちました。学校の生活にも慣れ、勉強や部活動のペースも掴めてきた頃、と本来なるべきところが、約2週間の休校、続いての分散登校と我々は新型コロナに振り回され続けてきました。我々だけでなく社会が振り回され続けています。既存のシステムでは立ち行かなくなり、新たな変革を社会が迫られています。コロナ後の社会の景色は全く変わると言われています。これは我々、学校で生活する者にも当てはまります。コロナ禍が収まるのが一番ですが、さらに思いもよらない事態になるかもしれません。そのときに、自らを見失わず、様々な視点を持ち、できることにどんどんチャレンジする。そういった人間になってほしい。今、我々は新型コロナに試されているのかもしれない。この危機を乗り越えていくべく、生徒と共に歩んでいきたいと思ひます。

## 第2学年より

第2学年主任 松永 俊

新型コロナウイルス感染拡大の波の中で、74回生は「ピンチをチャンスに」を合言葉に、『学びの個別主体化』を進めています。「3月休校」「4月末休校」の大波は、「各自が自宅でいかに学べるか」という、高いハードルを私達に突き付けました。これは見方を変えれば、同じ場所・同じ時間・同じスピードで同じことを学ぶという従来の教室での学びを超えて、一人一人が学びに対して主体的に向き合い、「自分のために(for myself)」「自分の力で(by myself)」自分を成長させていく力を養うチャンスでもありました。我々教員は単なる量的課題をこなさせることを超えて、より生徒の主体性を引き出すことを目指した課題を作成しました。また、オンライン学習のインフラ整備を進め、各教科・クラスごとに動画教材、遠隔授業の準備・研修なども実施しました。それを受けて、生徒達は我々の期待を上回り、それぞれが創意工夫を加えた学習への取り組みを見せました。とはいえ、生徒たちも我々教員も旧来のスタイルを変化・進化させている途上です。これからご家庭・地域の力を借りながらさらに攻めの姿勢を貫いていきたいと思ひます。

## 第3学年より

第3学年主任 村上 嘉則

令和2年度、第3学年は生徒234名、教員16名でスタートしました。3学年の今年のテーマは『負けてたまるか!』です。新型コロナウイルスの感染拡大により、4月下旬からの休校、部活動の休止、県高総体の中止、各種全国大会の中止など、先が見えない1年のスタートとなりました。さらに今年度からは大学入学共通テストが始まります。3年生にとっては逆境です。しかし、この逆境に負けるわけにはいきません。73回生の皆さん、学習においては真摯な姿勢で取り組みましょう。さらに普段の生活においては、挨拶、容儀、掃除、時間厳守など、凡事徹底を心掛けましょう。「こんな状況に負けてたまるか!」「こんな入試に負けてたまるか!」「自分自身のなかにある弱い気持ちに負けてたまるか!」という気持ちを強く持って、この逆境に立ち向かっていきましょう。3学年団は、73回生の進路実現を達成すべく全力で取り組んでいきます。

### 6月の主な行事予定

#### 高総体中止

3日(水) 理数科課題研究本発表会

8日(月) 運動部活動生引退式

9日(火) 3年放課後補習開始

13日(土) 進研マーク模試(3年 -6/14)  
土曜講座p(1・2年)  
進路講演会・コース説明会(1年)

17日(水) 生徒総会

20日(土) 県下一斉模擬試験(3年)

22日(月) 期末考査時間割発表  
部活動休止(-7/1)

23日(火) 早朝・放課後補習休止(-7/3)

29日(月) 期末考査(-7/2)

